

正續
古事談私記
十訓私記

愛媛
大學
古典叢刊

22

愛媛
大学

古典
叢刊
22

正續

古事談私記

十訓抄私記

第二期 刊行書目（太字既刊）

- 15 拾遺和歌集 上 伝二条為忠・世尊寺行忠筆本
- 16 拾遺和歌集 下 伝二条為忠・世尊寺行忠筆本
- 17 大海集 上
- 18 大海集 下
- 19 景清
- 20 春鑑抄他
- 21 古今著聞集私記
- 22 正統古事談・十訓抄私記
- 23 源氏物語 上 冷泉為相他筆鎌倉期古写本
- 24 源氏物語 下 冷泉為相他筆鎌倉期古写本
- 25 新古今和歌集 上 伝龜山院・青蓮院道円親王筆
- 26 新古今和歌集 中 伝龜山院・青蓮院道円親王筆
- 27 新古今和歌集 下 伝龜山院・青蓮院道円親王筆

（以下三点）

正統古事談・十訓抄私記

昭和五十年六月一日発行

編者 小泉道

刊行 愛媛大学法文学部国語国文学研究室内
愛媛大学 古典叢刊行会

印刷所 有限会社 青葉図書印刷部
松山市小栗六丁目三二三

発行所 790 松山市小栗六丁目三二三
青葉図書

電話（〇八九九）四三一・一六五
振替 徳島 六二一〇

愛媛大学 古典叢刊 22

凡 例

研究者の検索の便をはかつて、各説話集の説話番号を、見開き左頁の左肩に付した。各説話番号の依拠は次の通り。(二)については検討不十分のまま付した。)

(一) 古事談私記

新訂 増補 国史大系『古事談』の標題による。

(二) 続古事談私記

新校 群書類従『続古事談』の各段落を大凡の目安とする。

(三) 十訓抄私記

岩波文庫『十訓抄』(石橋尚宝著『詳解』同じ)による。

(附) 宇治拾遺物語私記(草稿本)については、参考までに特徴的な部分を抄出するにとどめたから、特に番号を付さない。なお、(三)の箋注はその巻末にまとめた。

目次

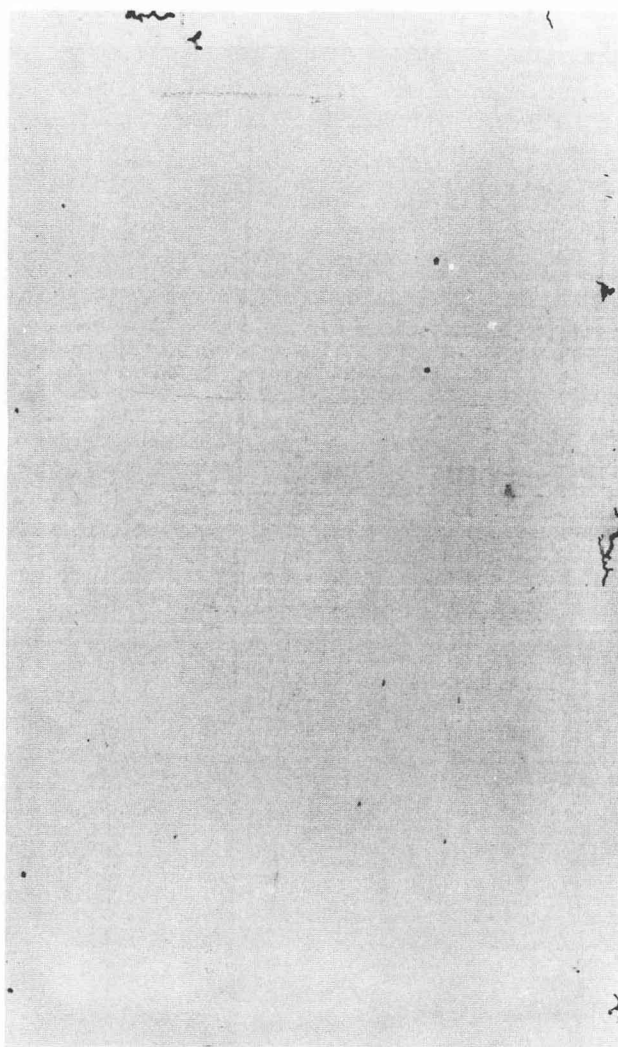
正統古事談私記（矢野玄道文庫本）	一	頁
古事談私記	三	
続古事談私記	三五	
十訓抄私記（矢野玄道文庫本）	六七	
（附）宇治拾遺物語私記（抄）（伊曾乃文庫本）	一四九	
解説	一五七	

正續

古事談私記

全

表紙



見返

古事談私記

扉
ウ

古事談私記

○昔籍目録云。古事談六卷。顯兼卿抄。

卷一

○稱德天皇。

傍注云。聖武御女。母光明皇后。不比等女也。初孝

抄。可。望。

諱天皇。後号稱德。又号高野姬。至道按。水鏡。塔囊

合見。望。

案或曰產婆。手。飯。今作乎。○不表。集。小。右中弁。注。

云。字。合。二。男。或曰。產。婆。手。飯。今作乎。○不表。集。小。右中弁。注。

子。贈。皇。后。宮。父。贈。太。政。大。臣。正。二。位。○全。八。年。內。宮。調。庸。望。

本。作。國。內。○全。九。年。望。本。有。廿。全。作。二。年。全。有。高。○四。年。全。有。

官。調。庸。二。○全。九。年。望。本。有。廿。全。作。二。年。全。有。高。○四。年。全。有。

○社。道。輔。云。社。悞。願。望。本。无。國。字。任。遣。師。云。恐。遣。望。之。

望。本。作。社。悞。願。望。本。无。國。字。任。遣。師。云。恐。遣。望。之。

作。去。○淳。和。御。宇。雄。略。天。皇。紀。水。鏡。下。俊。賴。口。傳。色。覺。集。船。公。本。

之。○淳。和。御。宇。雄。略。天。皇。紀。水。鏡。下。俊。賴。口。傳。色。覺。集。船。公。本。

望。本。飛。去。望。本。有。矣。但。又。云。一。浦。嶋。子。傳。云。望。之。曰。河。海。機。

作。到。望。本。飛。去。望。本。有。矣。但。又。云。一。浦。嶋。子。傳。云。望。之。曰。河。海。機。

○延喜野行幸。按見古今著聞集卷二十敦實親王。望之天皇云宇奈京極大殿。又云
師知足院殿。又云○延喜比。談云江○公忠并頃滅。備法從四
升大藏國經。忠實云○延喜比。談云江○公忠并頃滅。備法從四
思。○貞信公。望云忠昭宣公。又云基○遷都以後。德御記之文
難波宮。望云仁藤原宮。又云持○冷泉院。記可合秀小野宮
殿。望云實○圓融院。傳注云小野宮右府記左右丞相望之曰
兼家公白練沙云寬和元年二月十三日太上皇幸雲林院。○
邊子野遊。右大臣已下陪從京洛野邊見物車如雲院。○
好忠已在召人內云。太徽至見逐傳勢笑柄蓋謬左大將重源
保兩三位中將義懷宰相李○大井河道遙。望之曰白練抄云
光四日圓融院幸大井河攝政以下扈從有和歌管絃大藏卿時
中任參議由於彼帝祇仰下之○見續古事談卷一

准成
又六百八升
並封男

氏出伏部親性生時

都那瀬。主道按在入井川之西俗野山。
敏仕大納言也。○花山院。主道按見江談。○大藏卿。傍注云。
右大臣雅也。○主道按見大鏡。通位之稻光。此御出家。中第六卷聞
攝政。○御出家。物語。令著聞集。○此御出家。中第六卷聞
五男。○弘徽殿。祇。德公。充。回。院。道不隨者。背文也。主道案。師
大鏡。○弘徽殿。祇。德公。充。回。院。道不隨者。背文也。主道案。師
集。十三。弘徽殿。祇。德公。充。回。院。道不隨者。背文也。主道案。師
可。○花山院。大入道。家。不令。駢給。案。其喜。○入道殿。案。道。○大
觀。入道殿。深。擇。不。居。按。亦。強。項。令。可。○即殿。望。曰。○一條院。又云。
抄下第十。綾。雲。袖。今。作。滯。主道按。自此。是。○一條院。御時。全。
世。繼。う。う。た。雲。袖。今。作。滯。主道按。自此。是。○一條院。御時。全。
續。世。繼。い。の。○喚。諸。卿。全。云。續。士。地。火。爐。主道案。見。包。望。人。
ニ。ク。ナ。ガ。レ。テ。全。云。日。本。是。異。記。○於。清。涼。殿。讀。岐。守。兵。部。卿。
有。明。親。王。孫。彈。正。大。少。作。手。戸。第。○臨。時。祭。望。曰。十。訓。試。樂。并。
弼。守。清。原。中。宮。亮。本。作。手。戸。第。○臨。時。祭。望。曰。十。訓。試。樂。并。

后寺湯子抄御所長史皇太子御所御所此社下是奉祀御所也

顯考 ○後三 条院 奉拜也。玄道案、或東載、唯註本々。○實政卿。

望云、續世繼つゝ、平事據此其意詎可知矣。○春宮御時、敦光朝臣抄物。玄道接、

錄云。○大嘗會之時、在內藏寮。玄道按齊隨筆、可合方。○治曆比。

後三 条。延久善政。玄道案、見東齋隨筆。○太宮右府俊家。○宇治大納言。

齋宮寮。望云、續古。後冷泉院天皇。又云、續世。○延久五年。玄道

花物語。○宇治殿、立箸而歎息。接、唐人曰、憂置得雷、可以服。

白川院。大二条殿。教通。○延久四年。傍注、後朱雀院宮、御所陽

前太政大臣。賴通。大嘗會。傍注、云、明門院号、西院皇后宮。

切経。源平盛。○六條修理大夫。望云、云、十訓初下、第九、○知足

院殿。玄道案、堀河院。望云、十訓、汾河漢武之腹、左府。後房。

續世繼。○堀河院。望云、十訓、汾河漢武之腹、左府。後房。

玄道案、堀河院。望云、十訓、汾河漢武之腹、左府。後房。

△白川法皇、神御所、
△白川法皇、神御所、
△白川法皇、神御所、

△白川法皇、神御所、
△白川法皇、神御所、
△白川法皇、神御所、

△白川法皇、神御所、
△白川法皇、神御所、
△白川法皇、神御所、

年唐抄引並對集

永長元年。或人記。傍注。李傳記。望云。百練抄云。永長元年。七月

、夏、不、觀、田、素、替、裏、仙、洞、元、傳、鳥、羽、法、皇、參、考、平、治、初、語、云、

管、待、臣、傳、者、至、麻、官、預、此、事、○、鳥、羽、法、皇、道、案、見、雜、談、基、壘、

抄、職、原、八、八、力、馬、助、玄、道、按、馬、助、數、類、出、○、近、衛、院、保、元、韻、望、云、

一、作、八、八、院、子、今、宮、按、白、小、宮、二、條、後、腹、待、賢、門、○、二、條、院、御

負、源、平、盛、字、源、平、盛、

第二

○、貞、信、公、知、足、院、忠、八、條、大、相、國、實、高、松、中、納、言、○、童、詔、望、云、

作、三、條、內、府、按、公、一、條、伊、尹、續、古、事、談、云、望、云、朝、成、卿、傍、注、云、

部、方、○、二、郎、通、三、郎、按、見、大、鏡、廣、義、公、賴、○、東、三、條、院、子、○、御、堂、

按、大、鏡、

按、大、鏡、